明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

# 家庭雜誌

第三巻
第貳號

明治三十八年二月二日發行

家族數制限問題（金子喜一）……一
家庭者の覺悟（安藤兎毛喜）……六
日本女性の有する同情心（渚山）……七
米磨機械の話……一二
スープの話（祿亭主人）……一三
吾家に於ける一幅の畫……一六
善きオヂサン（堺枯川）……一七
學者の細君より……一八
競爭を協同……一九
二葉園藝……二〇
●プリムローズ、オプコンカ　●レナンキユラス　●寒葵
●梅の植込方　●椿の移植法　●其他三題
家庭と感化力……二四
內氣なる妻（渚山）……二五
女學校割烹參觀……二九
筆ついで……三〇
●婦人の政治的運動　●義理　●子の結婚　●片々集

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 由分社取次書籍目録

（本誌の讀者に限り左の書籍の御注文には郵税不要）

## 家庭の新風味

堺枯川著　全六冊合本　定價壹圓　郵税八錢

▲第一冊家庭の組織　▲第二冊家庭の事務
▲第三冊家庭の文學　▲第四冊家庭の親愛
▲第五冊家庭の和樂　▲第六冊家庭の教育

## 家庭夜話

堺枯川編輯　全三冊合本　定價壹圓　郵税十錢

▲第一冊子孫繁昌の話（ゾラ著）
▲第二冊質素節儉の話（コールドスミス著）
▲第三冊仁慈博愛の話（ストー夫人著）
（各冊三十五錢郵税四錢）

## 小説 火の柱

木下尚江著　價三十五錢　郵税六錢

## 妾の半生涯

福田（舊姓景山）英子著　定價三十五錢　郵税六錢

## 青年と生存競爭

（本書に限り定價の二割引）

安藤兎毛喜著　定價二十錢　郵税二錢

## ●本誌定價及廣告料

| 一部 | 一ヶ月 | 六ヶ月 | 一ヶ年 | 全國 |
|---|---|---|---|---|
| 金六錢 | 金六錢 | 金卅二錢 | 金六十錢 | 無遞送料 |

廣告料――特別一頁十圓、普通一頁七圓

### 注意

一、本誌は毎月一回（二日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年一月廿九日印刷
明治三十八年二月二日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎

印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京麹町區中六番町十番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第三巻
第貳號

# 家族數制限問題

ハーバート大學寄宿舍に於て　金子喜一

家族數の制限問題なぞと曰ふと、恐く一般社會の人々はその問題の極めて新奇なるに驚くであろふ。而も事實に於てはこは極めて切要なる問題であつて、苟も社會問題に興味を持てる人は研究せねばならぬ題目である。家族數制限問題とはその字の語る如く、家族數を制限することで、今日まで世の識者が餘り此問題を議せなかつたのは、一は社會思想の勃興せぬのと、一は問題その者が餘りデリケートで、道德上から幾分がひかへ目にした點もあつたであらふ。何れにしても、今日の如く生存競爭がはげしくなるにつけ、吾人は人道の上から此の重大なる問題を論じてみたいと思ふ。此新奇なる問題は、いまだ米國の如き新奇を好む國民に依りても公然論せられてはいぬが、事實に於て、家族數の制限は漸々行はれつゝあるやふである。而して如何曰ふ風に此の實行がその歩を進めてゐるかと曰ふに、これは一は道德上の問題として米國民の大に考ふべき點であるらしい。何故かとなれば、此の家族數制限の要せらるゝは、寧ろ下層社會のことであつて、上層若しくは富家のためには比較的不必要の如く見ゆるにも係はらず、今日行はれつゝある家族數制限は、所謂富家に依りてのみ實行されて居るからで。

元來此問題の問題として切要なる所以は、斷じて富家には少なくて、寧ろ貧家に多いのである。今日生存競爭の愈々激烈となり、人は唯だ衣食を得ることにのみ汲々せねばならぬ時代にあつて、一番強く下層勞働者の頭上に、かゝる所の重荷は何であるか。答ふるまでもあるまい。それは家族數の少數多數である。彼等にとりては、一人家族の多いことは、それだけ重荷の增加を意味してゐる。昔時は小兒の出産は一家の祝福であつたのに、今日は實に一家の重荷である。否な呪

咀であるのだ。
　然るに不幸にも所謂貧家には、世人が稱して不道徳となす所の家族制限法が行はれてゐぬので、これを富家に比較すれば家族數は多いのである。米國に於ける富家の狀態は今や實に恐るべき危期にせまつてゐる。彼等が家族數制限を行ふ所以は、決して經濟上若しくは敎育上の精神を土臺とせるよりも、寧ろ肉欲上の土臺の上に立つてゐる。されば吾人は米國の富豪間に於ける此傾向に對しては、斷々として其不可を唱ふべきであるが、又一歩を進めて貧民の狀態をみれば、吾人は家族數制限の必要を論せざるを得ぬのである。
　吾が日本に於ては年々五十萬の人口が增加しつゝあるので、これは一方から曰へば賀すべきであるが、他方から見れば又悲むべき事實である。世人は此の增加を稱して國民の膨脹であると曰ふが、それは膨脹であらふ。而も此の膨脹は決した喜ぶべき者でない。見よ、多くの無職業者は年々增加しつゝあるではないか。貧民は日增しに多數となりつゝあるではないか。始末に窮せる移民を何處に送るべきか。是は、恰も貧家の經濟が限られたる所に多く出來た小兒と同じで、充分なる衣食も得られず、敎育も保育も與へられぬと同然である。吾人はかくの如き狀態にある人口增加を指して國家の祝福と曰はれやふか。
　佛國にありては、年々人口の減少を憂ひて、數年前と思ふた、一種の法律を作りて家族數增加の奬勵をしてゐる。その法律とはつまり財産分配法のことで、例へば、こゝに三人の子を持てる父があるとする。而してその父が財産を分配するの方法は、長、次、三男と曰ふ順序でなくて、一番多く小供を持てる者に一番多く分配すると曰ふ方法である。又ゾラの如きも『子孫繁盛』てふ小說を作つて、頻りと人口增加を主張してゐた。かくの如き主張は、佛國に於て果して必要であるか、又不必要であるか。これは充分に佛國の社會生活を研究した上でなくば決せられべきでない。徒らに人口增加を以て一國の繁榮、衰枯を曰ふは、必竟皮相の觀察たるに過ぎない。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一國の上より見るも、勿論唯だ人口增加の故を以て、その國の祝福となし得ぬ如く、一家にしても同じことで、若しその家の經濟上の狀情が充分でなく、多數の家族を支ふることの出來ぬ場合に於ては、家族の增加は決して祝福であるまい。唯だに祝福でないのみか、實に悲慘の種である。その父母は、多數の家族を支ふるために過度な勞働をせねばならぬ。而してからくして衣食は支へ得るとも、彼等を正當に敎育することは出來ず、世界の戰場に出でゝ戰ふまでの準備も敎育も成し得ぬ中に、早くも追ひ立てゝ世界になげ出してしまふのである。その結果としては、即ち小兒勞働となり、不良少年となり、婦人勞働となり、はては賣淫婦となるのである。

かくの如き人口は例令一年五十萬なり百萬なり增加しても、一國は却りてその負擔に苦むばかりである。敎育のゆき屆かぬ、體育の發達の充分ならぬ人口は一家にも一國にも呪咀である。今日の死亡統計は何を示してゐるか、小兒死亡の多數であらぬか、小兒死亡の多數は何故であるか。つまり保育の不充分からである。されば增加せしめて短く殺すよりも、增加せずして長く活すの勝れるに如かずではないか。且つや弱くして不健全なる、無敎育なる人口を增加せしむるよりは、強く、健全にして、敎育せられたる小數の人口を持つが、却りて一國及一家の幸福であり、進歩であり、而して眞個の膨脹であると思ふ。

抑も、一日一圓内外の收入の家に四人五人の家族は多過ぎるのである。彼等は如何にして此の收入より四人五人を正當に養育し、敎育を與へ得べきか。犬の食料に一ケ月百圓以上を支出し得る富豪にありては、人間の家族が十人あるも二十人あるも何等の重荷であるまい。彼等は三十の家族を持てることを他人に誇り得るであらふ。而も、勞働者の狀態はこれに反してゐる。彼等は犬どころでない。先づ自分の衣食すらも充分給せられぬのであれば、彼等にとりては非常な問題であらねばならぬ。

予は今おぼろげながらに記憶してゐる。幼時予が隣



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家の貧しい家に出產があつた時、兩親は生れるや、直に其兒を殺して了つて、世間へは死んで產れたと吹聽してゐた。當時その隣家は非常に困難中で、出產は實に呪咀であつたのだ。吾人はかゝる實例を日々の新聞紙で見出すに難くない。又昔時岡山縣のある田舍には、一種の家族制限法の習慣があつたそうだ、それは、多くの出產がある每に山の奥に捨てにゆくのであつた。かゝる習慣は諸國到る所に多少宛存じてゐたらしい。

然しながら吾人が所謂家族數制限はかゝる無慘なる殺人を曰ふのでない。吾人は近世醫學の原理を應用して、所謂妊娠を避くるの法に出づるより他ないと思ふ。世人あるひは吾人を指して、プリナタル、マーダー奬勵者と曰ふであらふとも、吾人は人道のため敢て此問題を口にするのである。吾人は政府が公然かゝる方法を或制限の本に實行せしめて、殊に多數勞働者の無遠慮にして、餘りに自然なる家族の繁殖を制限せしめたら可からふと思ふ。若し文明とは人智を以て自然を制服し利用してゆくの上にありとすれば、人間繁殖の上にも此人智を適當に應用するが當然と思ふのである。

吾人は米國に於て、既に中等以上の家族に所謂制限法が内に多く行はれてゐて、家族數の減少が年々著るしくなつてくるのを見る。一八五〇年にありて、米國全體の平均家族數は一家五人五十五の割であつたが、一八六〇年には五人二十八。一八七〇年には五人〇九とまで減じてゐる。即ち四十年間に十一割十七分の減少である。紐育市の如き、又シカゴ市の如きは、其最も著しき減少の度を示してゐる。唯だ西部諸州及モルモン宗の行はれつゝあるユダ洲の如きは增加を示している。これは社會生活の狀態から說明し得られると思ふ。

統計に從へば多數家族の現象は主に外國移民に多い。而して米國產れの母には出產數が少ないと曰ふのである。これは抑も如何なる理由に依りてゞあらふか。恐らく無智なる下層階級を、最も多く此移民が代表してゐるからでもあらふ。紐育市の伊太利町の如きに行つてみると、家族數の多いことは甚しいのである。彼

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

等は自然のまゝに出産をするので、從ふて制限など行はれてゐぬ。而して彼等はその小兒の歩み得るや否や、直に町に追ひやりて、新聞賣りをさせる。靴みがきをやらせる。紙屑ひろひを成さしめると云ふ工合ひで、更らに小兒保育の面倒はないのである。否なその面倒を成し得ぬのである。

かくの如くにして増加し來る人口は、一國若しくば一都市の生活上に如何なる影響を與ふるであらふか。彼等が政治上、道德上、經濟上に及ぼし來る感化は非常な者である。罪人の多いのもこれよりである。無教育者の多いのもこれよりである。無職勞働者の多數もこれよりである。私娼の多いのもこれよりである。而して、ありとあらゆる社會問題の源泉は皆な此の貧民が自然のまゝに産み出したる人口よりであると曰はねばならぬ。吾人はこれを思ふて實に慄然として恐れざるを得ぬではないか。

然りと雖も、吾人は貧民の結婚を禁止する如き慘酷なる能はざる者である。彼等も吾人同胞である。吾人は何の權利を以てかゝる人道違反が行へるであらふ。されば、吾人の前に殘されたる唯一の方法は家族數制限のそれである。吾人は此制限法を以て決して人道に反した者とは認めない。苟も吾人の義務が正當に自然理法を了解し、而して、それと調和してゆくが人間の目的であるならば、吾人は何處までも自然法を善用せねばならぬと思ふ。吾人は世の識者に向つて此制限法を以て人口問題解決の一つとして、又幾多社會問題の根本的解釋の一つとして、而して吾人人類が意識的自然制服者たる正當の義務として、此の放任されたる大問題を少しく考へて貰ひたいと思ふ。

富の壓制
西川光次郎著

平易な意味のある筆致、婦人も安々わかる。試みに「流行の哲理」と云ふ條を少し紹介しませう。
「流行の源は富者で、金持が實に流行を作るのであります。金持は自分のエライことと自分の金のあることを人に知らしたいと云ふ一念から、凡て人と異つたものを身に飾るからであります。」



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 家庭者の覺悟

安藤兎毛喜

私共が若し一たび世の所謂成功なるものを仔細に點檢したならば其裡に幾多の不道德が含まれて居る事を發見するでせう。實に不幸な次第には、今の社會は道義の分子が多ければ多き程成功し易いと云ふ樣な社會ではなくして、寧ろ却て其反對の傾きを有して居るやうです。若し「ゑらい」人とは己を忘れて社會の爲に盡す心のある、優しき人を指すのであるならば、今の世では、成功者の中に此「ゑらい」人は甚だ尠いだらうと思ふのであります。さればかく卑むべき成功者と尊むべき失敗者とが混亂して居る此社會に於ては、所謂成功者を手本とするの危險なることは、自明の理ではありませんか。我等は此見地よりして、世の所謂成功者を餘り尊敬し、欽仰し過ぎない樣、用心をしなければなりません。

併しながら、人は誰も最初より自ら失敗を目的とする事はありますまい。誰も彼れも成効々々と成功を望んで居るのは普通の人情でありませう。だから私は思ひます。此社會の組織が適當に改められて、「ゑらい」人が成功し利己主義の卑しき人が失敗する樣な、其樣な秩序正しき道義的の社會が玆に實現したならば、其社會の狀態と此普通の人情とが都合よく調和して、嘸や健全な浮世が出來るであらうものを。遺恨なるかな、今の浮世はまゝならぬ浮世であります。正路によりてのみ進むものが多くは失敗する浮世であります。主義に忠實なる高士が時に大に苦みを受ける樣な浮世であります。自己の爲のみを計りて人を人とも思はぬ樣な、爪はぢきしてもやりたき程の人が立身出世して、意氣揚々大手を振つて歩いて居ると云ふ、實に譯のわからぬ浮世であります。

さりながら我等は何も此譯のわからぬ浮世に失望する必要はありません、譯のわからぬ浮世はつまり譯のわかつた浮世に仕直せばよいではありませんか。唯不平を云ひ唯失望するのは愚痴の極です。ですからして、我等は愚痴を云はずに、默つて其仕直しの仕事に取りかゝりませう。我は考へます。今の浮世がいかに譯の



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わからぬものだとても、之を仕直して仕直しの出來ぬ程のものではありますまい。唯其事業が容易でないのと、短時間に出來ないとの困難はあるとしても、手をつけてつかぬ程見棄てたものではありますまい。

然らばいかに手を着けたらばよいでせうか。我は先づ左の事項を實行するが手のつけ始めかと考へます。

一 輕々しく世上の成功者を買被らぬ事。
一 失敗者を輕蔑せぬ事。
一 利己主義の人には出來る限り遠ざかる事。
一 子供には一切平等の觀念を幼時より與ふる事。
一 ゑらき人が必定に成功すると云ふ社會と、今の社會とは隨分距離がある事を記臆して置く事。
一 我々の時代よりは我々の子供の時代の方が多少なりとも譯のわかつた世の中になる樣子供を教育する事。又教育の主眼は以上の各項をよく呑込ましむるにある事。

かくて失望落膽をしないで、此方向を錯らずに進んで行つたならば、譯のわかつた浮世は自ら到來するに相違ありません。そしてそれは案外早く到來するかも知れません。我は現代の家庭者がこの方向に其子達を導かれんことを希望するのであります。

## 日本女性の有する 同情心

### 附「死」と云ふ觀念の研究

涙香の飜譯小說今から十數年もむかしの出版に係る『妾の罪』と云ふのをゆくりなく讀んで、大變に感じた點があつた。筆は自叙體になつて居る。以下少しくこれを述べやう――種は佛蘭西物らしい。主人公は華族とて國中に名高い某侯爵家の令孃。この令孃の父侯爵が婿として內々に指定して居た古山男爵と云ふのがあつたが、孃には全然此男に愛がない。代りに孃は無位無爵の、其上只一介の醫學書生たるに止まる村上と呼ぶ男に深く思ひを寄せて居た。然るに、孃がこの戀を飽く迄も秘密にして居た結果、何處までも〱それが一身に附纏つて仇をなし禍を呼び、終には過誤とは云ひ條、情人の村上を始め古山と今一人の女性（これは村上の細君として侯爵が推薦して居る女）合せて三人の生命を殺さねばならぬ――いや殺したと云はれねばならぬやうな不幸の運命に陷つた、と云ふのが此小



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

說の主旨。尤も、これは例の探偵物なれば、後にて孃の身の嫌疑が晴れて公判廷では無罪を宣告され、特に殺したと思つて居た情人が再び世の中へ出て來て、有力な證人になつて與れると云ふ結末、そして無論此二人は夫婦となるのである。孃は其作の最後に特記して曰く、

「讀者よ、凡そ妾の罪の如き不思議なる罪世にありや。妾は唯村上との愛情を秘密にせし爲、斯くも不思議なる禍に罹りたり。秘密の愛を貪り玉ふ事勿れ。妾は後々の誡めにもと以上の始末を書き綴れり…」

成程孃が戀を秘密に附して、姑息の手段に出でたのは、彼女の大なる失策で、それが爲に大事を惹起した筋道も略ぼうなづかれるのである。だが、予はこゝに彼女の行爲の上に於て、予等日本人が特に敬重するに足るべき美所あるを發見せずには居られなかつた。美所とは何ぞや。即ち、胸中の靈火——愛の神聖を保護する爲には、如何なる危難にも恐れず、如何なる強迫にも屈せず、そして如何なる義理にもからまられず、斷乎として能く其操を持し、其自由の意思を曲げなかつた點にあるのである。令孃華藻が其秘密の情人村上を過失にて殺し、失望落膽の果、終に一夜慈悲深き父侯爵に他所乍ら暇を告げたが、固より指して行く先きは何れと定まらぬ。彼女は先づ停車場に驅付けて、最終點白耳義の國境まで載せて行く列車に乘込んだ。ところが、豫てから樣子を知つて居た古山男爵、どうして此場を易々と遁げさせやう。孃が列車の中で覆面などを取つてやれ〳〵と胸を撫下して居ると、『おゝ華藻孃』と云つて同じ室に這入つて來たのは誰あらう男爵であつた。彼は第一に孃の弱點を突く爲に『村上を殺したのは貴女である。』との意味を匂はせる。彼女の驚きは其時どんなであつたらう。彼女は既に命までも古山の手に握られて居るのである。併し、古山の目的は孃の罪を訐くにあるのでない。孃さへ手に入ればそれで好い。彼はこの點を極めて露骨に說明し、其警吏の細目を免かれやうと思ふならば我を愛し、我の妻たるを承諾せよ。然らば我は如何なる憂き目を見るとも御身を安全の地に置く事を敢て辭さぬ。と迄强い覺悟のある所を傳へた。此時若し大抵の女性ならば、自分の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

弱き心から、いや〳〵乍らも其意に從つたに違ひない又其罪を隱して貰ふと云ふ恩の爲めに、本來の意志を曲げるやうな事がないとも限らぬ。けれども孃にあつては一毫も其樣な曖昧な心は持たなんだ。愛は愛、義理は義理、義理と愛と、或は一身の安樂と愛とを一所にするやうな愚な事は少しもせぬ。試みに滊車中の會話を一寸抜いて見やう。

「愈私の言葉を聞かぬとならば、此次の停車場で巡査を呼び、力盡で侯爵の前へ連れ歸り、貴女の惡事を悉く告げた上、裁判所へ引渡すがよろしいか。」

「どうあつても父にはもう逢ひません。」

「それ、丈聞けばもう澤山た。父に逢ふのが厭なら、逃果せるより外はないから、私も一所に尾いて行く、何處までも一人はやらぬ。」

「貴方どうか其樣な事を云はずに私を逃して下さい。妾はもう誰よりも貴力に附纏れるのが厭ですから。」

「厭と聞いては尚更放す事が出來ぬ。」

「でも貴方眞實妾を愛して下さるなら、何とか此儘只一人で－」

「一人で逃す事が出來るものか。父上からはもう疾くに國境まで電報を打つてある。滊車から降りれば捕手が待つて居て、直ぐ捕縛するであらう－さうすれば重罪犯逃亡と見なし、罪人取扱で護送される丈の事です。」

「でもかうなつては歸れませんもの。」

「さ、それだから私が一所に行くと云ふのだ。私と一所ならば其樣な事に抜目がない。警察は勿論、知つた人にも認められぬやう、何處迄も隱して見せる。どうせ獨りでは逃果せぬ所だから、逃げたいと思へば是非私と――」

孃の進退は眞に谷つた。此際此急場を逃して呉れる人ならば、誰とて其道連を厭はうぞ。だが――

「だが、附すれば、貴方が又妾になれの、愛せよのと仰有るでせう。」

「それも貴女の返事一つで、直に愛せよとは云ひはせぬ。貴女が餘りつれなく出ると、力盡でもと云ひたくなるが、柔かに云つて呉れゝば、假令二年が三年でも私を愛する心の出るまで、猥らしい言葉も吐かず、兄妹のやうにして待つて居る。」

「屹度兄妹のやうにして。」

「さうとも。」

「でも貴方は妾と一所に永く他國に居る事は出來ますまい。」

「出來る所か。貴女と共にならば、三年が五年でも他國に逗留する積で、既に多少は旅費までも用意して來た。後で出奔と思はれやうが持逃けと譏られやうが、其樣な事には頓着ない。」

「でも妾は何の約束も出來ません。三年經つて愛するとも、五年經つて妻になるとも、其樣な事は少しも受合ひませんから、假令貴方に連れて逃て頂いたとて、其恩を返すか返さぬか、それも分らず、生涯貴方を惱んで終るかも知れません。それでも構はぬと仰有るなら連れて逃げて頂きませう。」

斯う談判が定り、終に古山の計畫に從ひ、汽車を引



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

返して西班牙へ逼げると云ふ段であるが、それにしても孃の云ひ分は實に賴母しい。凛乎として寸分も犯し難く、筋目が整然と立つて居る。婦人が其意志を發表するには、こゝまで太膽に、こゝまで冷靜に、そしてこゝまで正直でなければならぬ。今此孃の位置を假りに日本の女性に代へたとして想像して見たらどうであらう。果して孃の如き强硬の態度を見る事が出來やうか。短氣を起さず、感情に偏せず、儼然として愛の獨立を叫ばうと云ふ意氣ある人は、蓋しあるとも多からぬに違ひない。斯る場合、日本の女性が常に陷り易いのは、相手の境遇を氣の毒がる心、即ち一種の同情心にある。『此樣にして迄も妾を愛して吳れるのだから、此上我意を通すのは氣の毒でならぬ。寧その事、相手の意に從ふてやらう。』と云ふやうな調子で、つい心にもなき結果を產出すやうな事となる。一體此同情と云ふ心が、人間界に於て最も貴むべき美德である事は異論のない譯であるが、併しこの貴い心を動かすに就いては、前以て充分に考慮を費す必要がある。此場合に當て、云はゞ、『妾に愛を犧牲にする丈の勇氣ありや。』『果して妾は彼人にて終世耐忍し得るや。』など、熟慮し、徐ろに理性の判斷を待たねばならぬ。若し此時何等の思慮もなく、單に同情の念の動くが儘に行動するならば、實に生涯回復し難き間違ひを釀して了ふ。何となれば、此同情心は一時の發作たるに止る故に、ある時期を經れば直に其熱は消えるのであらう。そして、本來の愛念に今更乍ら不足を感じるであらう。此樣な怪しい同情の結果は、大抵同一の運命を造出すもので若し其婦人强ければ、愛念の滿足を得るが爲に終に破倫の行爲に出ずべく、又其人にして弱ければ、生涯愛の不足に嘆きつゝ、怡樂なき慘憺なる死の生活を續けねばならぬ。予は右の如き不健全なる同情心を日本婦人の殆んど通弊として認めて居るが故に、態々こゝに此實例を引用して平常其局に當りつゝある父母教育者の反省を乞はうと思つた譯である。

　さて予は此話をある日親近の一女生に告げたが、意外なりしは其答であつた。一女生曰く。『何故其孃さん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は死なゝかつたのでせう。其戀は父親の許しを得ぬ事であるし、誤ちとは云へど愛する人を殺した身。どうしてあてもない汽車に乘込んだのか、それさへ不思議であるに、厭な男爵と一所に逃げるとは、一體どう云ふ孃の心でせうか。』――予はこれを聞いて一應は道理と思つたが、矢張これも日本婦人の大部分を代表する思想であると云ふ事を後直に思返した。そして、西洋婦人の思想と大に異なる點のある事を發見したのである。無論、慾念に執着せず、潔く一命を捨てると云ふは望ましい事であるが、この大切な生命を無にするに就ては、無論また大に思案をして見ねばならぬ譯。總じて日本婦人の多くは餘りに生命を輕く見過ぎて居るよく新聞の雜報にもある話だが、若い娘さんなどが夜分他人の家から下駄を穿き違つて歸つたのを、友達から故意にすりかへたものだと云はれたとで、到頭身投げをしたと云ふ例がある。これは胸の狹いと云ふもので、決して潔白な行爲とは申されぬ。矢張短氣、一時的の情の發作と云ふべきである。これと前の場合とは大に問題の輕重はあるが、それにしても予等の考では、死ぬる理由は斷じてないと思ふ。まづ自分は如何なる不道徳を行つたか。如何なる罪を犯したか、これを自問自答して、自分の良心に何の反應もないならば誰に對しても少しも恐れる事はない。孃があてもない汽車に乘り、其上厭な男と一所に逃げると云ふのは、これを日本婦人の目から見れば不思議に映るが、西洋婦人の思想では當然の事をやつて居るのである。『死なう。』と云ふ氣がさう易々と彼等の胸に起つて來ぬ。彼等には唯どうしたなら自由の天地に這入る事が出來やうかと云ふ計畫と意思がある許り、自分の力で盡せる丈の防禦策を講じ、七轉八起、そして最後迄貴き生命を保護するに力めるのである。此點から見る時は、度胸の强さは眞に見上げたものと云はねばならぬ。

予は此死を考へぬ西洋思想を不潔なる心事とは解釋せぬ。却て生命の尊きを自覺せる、最も大切なる慾望であらうと思ふ。そしてこの强き慾望こそ、世の大事



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

業をなし、又その德を全ふする事の出來る、原動力となるのであらうとしか思ふ。日本の思想は潔いかは知らぬが、全然感情的で弱々しい。彼を堅牢な鐵板のそれに譬ふれば、此は脆い玻璃板である。日本婦人が些細な困難に出逢つても避易し、直に大切な生命と交換をしやうと云ふやうな心の傾向を持つて居るのは甚だ憂ふべき點で、今後の女生には「何よりも生命は貴い」と云ふ事を充分に自覺させる必要は乾度あるのである。(浩山)

**謹賀軍國新年**

日の御旗輝く山のふえぬらし年立つ今朝の空をし見れば

祝貴家萬福

小家息災萬貫粟

| 家族＼事項 | 年齡 | 身長 | 體重 | 體格 |
|---|---|---|---|---|
| 主人 | 三十二 | 五、二七(尺) | 一八、三〇〇(匁) | 最強 |
| ツマ | 二十五 | 四、九〇 | 一三、一一〇 | 強 |
| 重憲 | 七ツ | 三、二七 | 三、五九〇 | 強 |
| 文子 | 六ツ | 二、八八 | 三、〇〇〇 | 強 |
| 龍夫 | 二ツ 五十二日目 | 一、九〇 | 一、三三〇 | 最強 |

樂在其中

明治三十八年元旦

大阪府立富田林中學校敎諭北村重敬



## ●米磨器械の話

ふみ

或日の朝、堺さんが專賣特許局の米磨桶を買つて來て下さいました。寒中の水道の水は骨にしみとほるほど冷いので、私も兼てより、米磨はかりは實につらいと思いまして、眞赤なひゞを切らした兩の腕が袖口にさはる痛さにつけ是れは迚ても人間の手ですべき仕事でないなどゝ申して居ましたが、流石にかゝう贅澤らしいものを買つて戴いては、何だか濟まぬやうな、又こんな御雛樣みたいなのでと云ふ氣が致した處が使ひなれて見れば、大變に調法なもので、冷い辛い思は暖かい面白さに變り、今では二升の米を立派に磨ぎあげるのに、八分しか掛りませぬ。是れなら手よりも早いのです。こんな道具は是非どんな家にも求めて欲しいと私は思ひます。奥ざん御自身が辛抱して、冷たい目をなさるのは、それは先づ感心と致しましても、人の子を女中だとて、器械かなんぞの樣に使ふのは、あんまり思ひやりのない、殘酷な仕方だと思ひます。それで此器械さへあれば、氣兼なしに人にも賴む事が出來ますし、人も亦不足なく、自然快く外の方面に勞力を惜みませぬ。

扨此器械は、普通の桶の上に幅七分位の鐵の板をさしわたし、其眞中に穴があつて、そこに長さ三四寸の鐵棒を立て、其鐵棒の上の方には木の柄がついて、其下の方には五分幅の鐵板で三角形の物が附けてあつて、チヨツト例はゞ澪標(みをづくし)を逆樣にした樣な恰好です。それで其の木の柄を持つて、右に左に廻しますれば、自由に磨ぎあげ磨ぎおろす事か出來るのです聞く所によれば、此器械はツイ此頃の發明で、まだ改良を加ふべき點もありさうに思はれますが、何にせよ女の手をひゞと霜やけとより救ふために、有がたき發明だと思ひます。價は二升磨で九十錢ばかり、是れはチト高すぎると思ひます。賣捌所はどこ／＼にありますか、私の近處では京橋區鎗屋町十四番地遠藤方に賣つて居ります

(平民新聞)

# スープの話

## 上

スープは肉類介魚野菜牛乳等を材料とし、之に種々の薬味と香料を加へて作る羹であつて、之を大別すれば稀薄と濃厚との二つになります。前者は最も透明にして淡薄なるを尊び、後者は麥粉や野菜のつぶしたのを加へて稍濃厚にしたものです。尚其材料によりて種々雜多の名が附けられてありますが、つまり總てのスープに必要な性状は風味と滋養性の二つに歸します。併し良きスープを作るには必ずしも高價なる材料を用ふるに及ばず、其選び方と調理法とを研究し、出來得るだけ多くの味と養分を材料から拔き取る事が肝要です。歐米に於て中以下の生活を爲す人が良きスープを得られぬのは、其材料の惡きよりも寧ろ其無智により調理法の原理を會得せぬが爲招く所の損失であると言ふ事です。故にスープ學の研究は決して富者の爲のみならず、貧しき家庭にも甚だ必要な事であります。

日本料理に於て鰹節の出しが總ての吸物の基礎であるが如く、總てのスープの基礎になるものをストックと言ひます。ストックは魚や鳥の肉からでも出來ますが、殊に多く用ゐらるゝのは牛であります。

▲牛肉の成分は纎維、脂肪、膠質、溶解性蛋白、及びエキス分鹽類です▲纎維は滋養に富める食物であるが、熱湯に逢へは膨脹し長時間煮れば軟化して崩潰れるのみ。更に水に溶解せず、從つてスープの滋養分にはなりません▲脂肪は肉の全部へ附着して通例肉眼に見ゆる丈を取り去つた肉でも、尚其十分の一の脂肪は殘つて居ります。これは熱に逢ふて容易に解けますが、其一部は尚纎維に附着し、他の一部はストックの表面に浮き上ります▲膠質はスープに含む滋養分の基礎となるもので熱湯には容易に溶解し、冷却すれば寒天の如く固るものです。▲溶解性蛋白質は肉中の百分七を占め其切り口や纎維の間に附着し水及び微温湯に解けるが、華氏百五十度位の熱に逢へば其半分以上が固り泡沫となつてスープの上に浮き、殘る所は僅かに百分



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の三位であります▲鹽類とエキス分は牛肉中大凡百分の二、五を占め冷水にも熱湯にも溶解します。總ての肉が有する風味と云ふものは皆この鹽類とエキス分の味の外は有りません。此二つは若くして運動の少き動物の肉中に少く、成長して運動の激しき動物の肉には多量を含んで居る。故に雛鳥や圏の內で養ふた動物は其肉に風味が少く、又極端に激しい運動をする野生禽獸の肉に一種不快なる臭味のあるは、此エキス分と鹽類を多量に含むからです。牛肉でも其色が濃くして黑みの帶びたものは、なま白き肉よりも多量のエキスと鹽分を含む故スープに多くの味を出します。

リービッグの肉越幾斯百分は二十二の水と七十八の固形分より成り、其固形分は右に述べたエキス分と鹽類のみで、蛋白でも膠質でもありません。故に此肉エキスと言ふものは其味甚だ芳しく即席スープの材料に用ゐられますが、普通の意味に於ける滋養食品でなく、興奮性嗜好物とでも言ふべきものです。

▲動物の骨は肉に比べて八倍多くの膠質を含むもの



であるが、それが骨組織の中へ緻密に包含せられて居るので、之を拔き去りてスープとするには骨を成るたけ細かく砕き袋に入れて長時間煮ねばなりません。骨の滋養分が皆スープへ出る迄煮ると其重さが三分の二位まで減ります▲膠質は滋養品でありますが少しも味と言ふものが無いので、骨ばかりで作つたストックは之へ種々の野菜や藥味を加ふるの必要があります。

肉と骨につきての話は先づこれだけにし、茲で普通のストックを作る手續を一通り說明して置きます。

先づ牛肉は至極新鮮にして脂肪の少き所を選び、止むを得ざる塲合の外は決して之を洗ひません、それは表面に附着した溶解性蛋白質を失はぬ爲です。肉は成るべく細く刻みて冷水の中に二時間計り浸し、先づ水に解ける成分だけを拔取る樣にし、骨があらばそれも共に適宜の鍋に入れ水を加へて火にかけます。

▲水は成るべく軟水を選び肉一封度につき大凡八合の割合で宜しい。ストックは初から充分の水を入れ置き煮詰つても跡からつぎ足さぬ樣に致します▲鍋はア

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ルミニユームを最上とし、奇麗に磨いた鐵鍋、良くし●●●ろみか琺瑯のかゝつたソース・パン、若くは蓋のある壷でも構ひません。其容量は普通の家庭に於ても二升以上を容れる位、成るべく大いのが宜しい▲●火は始終華氏の百六十度位を保ち、烈しき熱を禁じます。

右の如く徐々に熱を與ふれば蛋白の或部分が固まつて泡沫と成つて浮き上ります。此泡も亦滋養分でありますが、ストックの透明を保つ爲には浮上るに從ひ之を掬ひ取らねばなりません。唯濃厚なるスープの材料としては左程嚴重に取り去らずとも宜しい。大凡一時間經て最早泡が出ぬ樣になれば野菜や鹽を入れ、それから少くとも三四時間、都合により七八時間も文火にかけて置きます。蒸發と香の飛散を防ぐ爲め鍋の蓋を密にし烟の立時などは決して蓋を開てはなりません。

▲●野菜は葱人參セルリ蕪菁等の内便宜により二三種を選びます。其分量は通例肉の四分の一位、或は肉と同量若くは野菜の方を餘計に入れても構ひません▲藥●●味は胡椒蒜丁子蕃椒肉豆蔻月桂樹葉などの内を適宜に取捨するのですが、何れも火から下す一時間計り前に入れます。

ストックに充分味がつきました頃粗き篩を通して其滓を取り、再び手篩を以て漉し之を別の器に移し、冷却した時表面に固まつた脂肪を取り去ります。若しさまして置く遑のなき時は匙で掬ひ取つても宜しい。

▲●脂肪が少しでも浮んだスープを嫌ふ人もありますが、これも滋養食物の一であつてそれ程忌むべきものではありません。故に重き胃病に罹つた人に與ふる外、少し位の脂肪が殘つて居ても差支はありません。殊に濃厚なスープに於ては多量の脂肪も麥粉の樣な粘滑物とよく混合して表面に浮き上らず、安價にして滋養に富み且つ味よきものに成ります。

斯くの如くして作つたストック大凡一合を一人分として、之に何か少しの種を加ふれば色々のスープが出來るのです。右に述べたのは唯ストックに關する大體のお話ですが、何特種のスープを作る各論は之を次號に於て委しく述べましよう。（緑亭主人）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 吾家に於ける一幅の畫

遠江　午山　生

昨年の春頃であつたと思ふ。余の一知人が東京より青年の歴史畫家が來たから、何か望みのものもあらば書かせよと云ふてくれた。然し、余は繪畫は好きであるが、借て畫いてもらはうとなると、速にこれを注文したいと云ふ程のものも無い。實は繪畫としては人物より、花鳥より、余は山水畫を好むのである。その山水畫よりは、自然そのものを愛する方であるから、見るときは宜く出來たとか、なんとか感じもするが、其實軸物を床に懸けて樂むよりは、田園の間を散歩する方を余は全く好むのである。これも思へば貧家に生れた余の境遇が斯くしたのかも知れぬ。それは兎に角として、余の今の住居には軸物を懸けるところがない。斯樣の次第であるから、頼もうと思ふものも急には思ひ出せ無いので、好意を謝して止めようと思つた。而し、其青年畫家の筆になつた、新羅三郎の足柄山源藤家の勿來の關や、楠公父子の櫻井の別れを見せられては、亦急に頼みたくもなつて、遂に明智左馬之助の湖水を渡り、馬を松につないで立去ろうとするところを依頼した。余の知人は疑ふような、而して笑つて云うに、光俊が金龍の陣羽織を比叡颪に吹かせて、湖水を渡る勇ましい畫は見たことがあつても、湖水を渡り終つたとこは餘り見ない。畫家が畫くかどうかと云つた。余は念を推して、渡る勇ましい圖なら斷ると云ふて別れた。其後、余の斷るよりは畫家が斷つて歸京したとのことであつた。然るに、秋の末つ方であつたと思ふが、米僊翁門下の青年畫家、大矢米年氏が來にので、余の知人は今度は必ずかゝするから、共に遊びながら行かうと云ふ。一寸行て見ろと、米年氏は珍しい注文だと笑いながら、余の注文通り、見る間に竪九寸、横尺三寸の唐紙へすら〳〵と畫いた。素より密畫ではないが、松の大木につながれし馬、見かへる左馬之助、靜かな湖水の岸、眞に宜く出來たとは人の評であつた。今は余の枕邊の壁に懸つて居る。これが余の生れてから初めて畫家に頼みし畫題である。而してこれが表裝せし吾家に唯一な畫である。

余は一鞭駒にあてゝ琵琶湖を乘切つた、空前絶後否な絶後では無いかも知れぬが、空前の勇ましい明智光俊よりは、「明智左馬之助湖水を渡せし馬」と、悠々と敵前にて矢立の墨もて認めたる、左馬之助其人の衷情を愛する。否な、余はこの情ありてこそ、逆賊明智の殘黨てふ惡名を負ひつゝ、彼れの自盡せるの時、從容として國寶と私財の義を明にし人をして感嘆せしめたるのではあるまいかと思ふ。余が特にこの畫題を選んだのは、動物虐待を防止せすとの單なる意味ではない。彼の如く惡名を受けて自殺せよとは更に思はない。只彼の如く事破れても動せす、死に際して亂れざる、彼れ左馬之助の温情と精神とは、これ何人も學ぶべきにあらざる乎と思ふたるが故である。

旅順開城に關する談判結了と、露軍の砲臺や殘艦を自爆したりと新聞紙の報する一月四日夜認む。


注意

▲二葉園藝（花好きの人の爲質問隨意）
▲家庭通信（讀者諸君よりの通信を掲ぐ）
▲西洋料理の栞（緑亭主人擔當にて質問に應ず）
▲讀者の顧問（新家庭を作る人に取つての相談役）


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# オヂサン

渚山君足下。

僕は一昨日から此處靜岡の篠田氏に來て居ります。ことは御存じの如く、僕の女兒眞柄の預けてある家です。

一昨日の午後六時、新橋から滊車に乘りこんで、久しぶりに我子を見に行くといふ心うれしさに、五時間の滊車の中を退屈もせず、居ねむり半分、讀書半分で、丁度十一時ごろ靜岡停車場に着きました。すぐ車に乘つて此處に來ると、家内中まだ皆起きて待つて居て與れました。家内中といふのは、先づ篠田氏夫婦（此の細君の方が僕のいとこです。）次に十六と十三との二人の娘、それから去年以來、僕の亡妻に代つて僕の子を世話して、今もこゝに來て居る（そしていまは專ら裁縫の稽古をして居る）、今年廿歳のお勝といふ人。眞柄は勿論疾くにから寢て居ました。それで其樣な子供の寢顏を見たり、蕎麥を食つたりして、よもやまの話にとう〳〵二時頃まで起きて居ました。

昨日は目がさめると先づ床の中で眞柄と對面致しました。彼れは三ケ月ぶりに僕の顏を見て、何だか見た事のある樣な人だとでも思つたか、聊か羞ちらひて顏を隱したり何かしながら、それでも直ぐに來て僕の膝に抱かれました。彼れは今滿二歲で、頗る善く發育して居ります。

朝飯が濟むと、二人の姉さんは辨當もつて學校に行く、跡は家内中で芹摘がはじまりました。こゝの屋敷には、家の裏手に大きな池があつて、其汀に澤山芹が生て居る。バケツに一ぱい芹を摘んで、それを井戸端に持つて來て、皆打寄つて奇麗に洗ふ。眞柄も一人前らしく何かやつて居る。日は暖かに、水は溫んで、梅も一輪二輪咲いて居る。晝飯のおかずは是れで出來ました。

晝から姉さん達が歸つて來ると、僕がみやげに持つて來た手風琴を取出して、二人で代る〳〵稽古をする、眞柄は眞柄でハーモニカを吹いて獨りで喜ぶ。中々賑



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かな事でした。夜は又樣々の話の中に、娘達の學校で書いた書を見たり何かして、今夜は早く寢よう／＼と云ひながら、やはり十時過まで遊びました。

今日は晝から皆で寫眞を撮りに行く筈です。眞柄は今、日あたりの椽側で「勝ちやん」と遊んで居ます。

渚山君足下。僕は此家に在つて「オヂサン」の地位に居ります。眞柄は篠田氏夫婦を「オトッサン」「オッカサン」として居ります。彼れは今、父母と三人の姉とに愛せられて、最も幸福なる小兒となつて居ります。僕は此事を彼れの亡き母に知らせてやりたいやうな氣がします。而して僕は善き「オヂサン」たる事を以て深く滿足して居るのです。

僕は又明日より、東京の塵烟の間に歸つて、忙がしき務に服します。

一月廿一日 午前　　枯川生

## 學者の細君より

私事は大阪にて博物學を專攻する夫に事へ居るものに候、仰せの通り會社員と云ふ生活上の職業を持ち居り、剩へ夫は病身にて二人の小供も有之候まゝ、つい／＼なんでもなきことにすら、夫の研究の邪魔を致し、或は不自由を多く感じさせ候ものから、その度び毎に、斯樣な苦しい中にも健氣に研究し居る夫を扶けずばやと省み候も、修養足らざる悲しさには、時折自分ながら愛想の盡きること有之候。

昨冬、夫の愛讀する博物學雜誌を讀み、其の中貴下の「家庭雜誌」紹介有之候ゆゑ、繰り返へし拜讀仕り、大に省みる所有之候て、仰せの大學ダーウヰン先生の夫人を眞似てみたく、旁々叛れて讀みたく思ひ居り候ものから、女學世界を止めて十二月の家庭雜誌より購讀仕り候處、該誌にて幸ひにも貴下の「學者の細君へ」を拜見仕り、世には私の夫のやうな殊勝なる人のあることを知り、且つその爲めに特に御立論下されし御厚意誠に有難く、一讀して生れ代りしやうに相思ひ、何卒して夫の天職を全ふさせたく、如何がな慘害を嘗むるもと決心仕り候、これ全く貴下の賜物にて、夫と共に此の高恩は死するも忘れ申されず候。私もかく生き居るからには、何か爲て死なねばならぬ身體、一層共の餘力を夫の事業を扶くるに注がるれば、如何に幸福のことかと、前途に對してホヽ笑まれ候。

扨それに就いてはなほ同誌上にて時々御諫言を賜りたく、くれ／＼願上たてまつり候、是れ決して私のみの爲めには有之ずと存じ候。

尙種々御示敎を仰ぐべきこと有之候へ共、後日に讓り、本日は年と共に改めしわらはの心意氣を右迄……………匆々不備

ゆ　り　子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 競爭と協同

てき生

世には奇妙な似而非論はあるもので、先づその内の一は、史的知覺を缺いて居る結果として、事物の性質は常にその起原が語るよりも多くであると云ふことを認め得ないことで御座います。他は人間の自覺と意志とを無視して居るが爲めに、人間の道德律を動植物より學ばうとする、極めて謙遜な議論で御座います。そして、これが又競爭と協同との完全なる意識に惡果を及して居ると云ふのは、我々は實に學問界の慨はしき一事と考ふる次第で御座います。生命は外科醫のナイフより飛ぶ。科學の通弊は實にこれであります。

諸君、競爭分化が現にこの瞬間迄社會進步の事實であつたと假定しなさい。然し、これがなぜその事實を以て、又將來も然るべきものと定むることが出來ませう。過去の事實は必ずしも現在及將來の事實ではありませぬ。自然力の作用で發生した自然界の出來事であれば、他の力のさまたぐることがない以上、永久に繼續する性質即ち必然的のものでありますけれども、人類の意志に干係ある顯象は、之に反して、大にその理性の判斷に歸するもので、即ち撰擇的のものであります。かくて、史的研究てふ科學者の唯一の鍵も、後者の解決に對しては大にその價を減ずると云はねばなりませぬ。それに又、動植物界の顯象をとり來り、比較推理の名の下に、人間界の事實――殊に事實に非ず、過去に非ず、將來の規範理想たるべき人間界の道德律を定めんとするに於ては、私は何の辭を以てこれに答ふべきかを知らぬのであります。カーライルが云へる如く、人は人で決して野生のけものではありませぬ。我々は意志の尊嚴を主張すると共に、全からんと欲しては、向上の路に精進せなければなりませぬ。ヘンリーロイドは、世界は協同團結するの人に屬す。社會の進運は一歩更に一歩、競爭衝突の徑路を去つて、協同助成の天地に闖入すと云はれましたが、これからは、競爭にかはる新しき意識は協同と云ふことでなければなりませぬ。否、斷じてさうせなければならぬのであります。

終りに、トインビーの語を紹介致します。

職能の分化は精神の統一をうながすべきで、分化はたゞ高き統一の達せられ得んが爲めに起るものであります。精神の分化でなく、職能のそれは我々の望む所



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であります」精神の統一は職能の分化の原因で、職能の分化は精神界の統一を目的とするのであります。されば、婦人は生活や目的の高き融合によりて、初めて獨り男子より解放せられ、勞働者はかくして又その雇用主より解放せられ、個人は自覺的にその身を社會に捧げて、社會より解放せらるゝのであります。此の如くで、進歩の目的及法則は人間精神の統一にありまして、そして、夫は獨り職能の分化によりて達せらるゝのであります。殖産界の分業は即ち殖産の目的の統一を意味して居りますが、總てこれ等は皆一層高き道義的精神の統一によらなければならぬのであります。

それで、私は思ひます。協同して各自その職能にはげむは、この世を天國とするの道で、又總ての人を解放して自由とするの道であります。そして、社會にこの意識を養ふ最も手近な方法は、家庭内にこの意識を鼓吹するにあります。由來、家庭は最も協同意識の發達して居る所ではありますが、尚ほ私はその自覺的ならざるを憾み、これを主婦諸君に計りて、この教へ導かれたる新家庭裡に長せる人々が、新に社會を作るの一日も早からんことを希望するのであります。



# 二葉園藝

エデンの花守

## 初春の草花

### （一）プリムローズ、オブコンカ

櫻草より花が大きくて香が高く、而も純白で氣高いので、大に珍らしく感じ、爾來嘆賞措かぬは此のプリムローズでありまして、それが又、四時共一莖から十餘の花を開くので、年中我等の花園を高雅にして呉れます。西洋では宴會や客間の卓上に、盛り花として愛賞して居ります。

扱て之を栽培するには、花壇、盆栽、孰れもよいが肥料は油粕を水に解して、腐らしたのを薄くして與へるに限ります。

### （二）レナンキユラス

いつぞやの秋、扁平い球根を友から送られた儘、鉢に植へて書齋に置きました所、冬になつてからそろ〳〵芽を出し初め、三月になつて小さい切れた葉の間から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

紋の艶やかな花を咲きましたので、これは〳〵で賞して居ました。後で是がレナンキユラスと稱へ、單、重瓣や變り咲きや白、赤、緋、ボカシ、絞などと種々の花を着ける洋草だと聞いたことがありました。

これを培養しますには、肥土に鋸屑を混せたのに、植え付け、肥料は前のプリムローズのと同じく、或は普通の水肥を薄くして施るがよいのです。盆栽、花壇とも見事観賞に價します。

### (三) 寒葵

二三月の交に、紫黝色の、緣は三つ切れの山高帽を仰向たやうな小さい花を咲きます。諸國の山中に自生する多年生の常綠草です。或る地方の山家では、少女等が春の摘み草の時、雀の茶釜と稱へて非常に愛します。葉は馬蹄形で、厚くて剛く、よい香がして碧色の斑があります。變種もタントあるし、漢藥にも使ひます。庭の隅などにちよい〳〵、此の草の一群を見ますのは仲々妙です。

* * * * *

### ●梅の植込み方 (美添氏質問)

梅の鉢植などを植木屋から買ひましても、其の年には能く花は咲きますが、翌年には一向ウマク行かぬ事があります。是は一年餘り多くの花を着けた爲め、次の年に樹勢が衰へた結果でもありますが、また手當の宜しくないのにも依ります。

その手當としては、春花を見終つたら、直ぐに其の枝先を切り詰め、又た根も太根の先きを切つて、さてそれから植え込むのであります。さすれば其の枝からは新たに芽を出し、根も鬚根を多く生やして、樹の勢は益々盛んになり、隨つて充分開花するやうになります。

### ●椿の移植法 (吉田君質問)

仰せのやうな木陰にあつた、大切な椿を、直ぐ日當りへ植えなさるには、一度にせずと、周圍の陰になる邪魔な樹木の枝などを除き、追々と日光の直射に馴らし、それから秋に於て移植することです。移植當時は土地を乾かさぬやうに注意なさるがよい。是れが若し

他の植物なら、勿論葉が落ちて了つてからにするのです。夫は元來、草木の葉は水分蒸發の機關ですのに、植え代へたとて、其れを補ふ水を直ぐに土中から吸ひ取れませぬので、追々萎れてしまうのであります。けれども椿のやうな常緑樹は、其葉から割合水分を發散させぬやうに出來て居ますので、そこは幾分安心なものです。

それで仰せのあなたのは、どうも植え換え時がワルかつたやうに思はれます。けれども葉に黒點が着いたのは別に案ずるに及びませぬ。此の上は陽春の候に至つて、充分成育やり、根元二尺ばかり離てヽ、今の中に少し(必ず少し)の肥料をやつて置きなさい。其の上枯るれば、惜しいものだが罪はあなにあると申さなければなりません。

●草花の撰擇を望まれし方へ

美しい草花二十種を選んで呉れと仰やつた方はありましたが、是は少々手前共に難かしい問題でありまして、私のスキなものは貴下のスキなものとも定まらず



また私の申上げるものを貴下の方で手に入られるのもチト難儀かと思ひます。勿論無責任なことを申上げるのなら別ですが。

そこで私は一策を獻じます。それは南品川の妙華園などのやうに西洋草花を盛んにやつて居る花屋へ、その土地の氣候を記して、其の撰擇を依頼されることです。さすれば、當時の所謂流行と云ふもの、これならばと云ふ所を見込んで＝それは又、所謂商賣ですから相當のものをよこします。尤もそれには、最初相當の種子代(一種五六錢)をアソコへ送つて、不足或は餘分を後で算用するから、兎に角幾種の草花(盆に植えるものとか、壇にとか、水邊にとか)の種子を……と申し込まればお互に都合がよいでせう。

なほ私も折を見て、四季それ〴〵の群芳を皆さんへ紹介しませう。

●草花の種子を望まるゝ方へ

昨年の秋、私が皆さんへ花の種子を分けられぬに付き、唯護吾君を紹介して責を免れやうと思ひましたが一

昨年からの古顔でか、ポツ〳〵望まれましたので、私から又た友へ頼んで、遅れ馳せにも十幾名の諸君へ既に差上げましたが、是れからもまた云つて來られさうでなりませんから「少しも持ちません」と改めて申上げて置きます。その代り今年は、どうかよい花を作つて皆さんへお分の出來るやう勉めます。

* * * * * * * * *

## ●花守の經驗及希望

山形市 山中恒助

草花は何よりの好物で、數年前より菊、朝顔、など種々と栽培し、これを朝夕の樂しみとして居ます。無茶苦茶の植方ですから、よいのにもならず、またロクな草花もないのは遺憾でなりません。一體斯樣な處に居ては、新聞の廣告位で、東京へ遙々注文しましても、蒔けば生えぬ種子を、ヤレ珍花、ヤレ舶來のと褒めチギツて、そのくせ約束の半數ぐらゐを郵送し、あとは品切れと朱印を喰はせられるのには閉口です。ですから今は是れを思ひ止つてしまいましたが、美しい花作りはなか〳〵止められませんで、どうかして確實な花の種子を需めたいと思つて居ましたところ、ちやうど御誌で承つて早速願つたやうな譯でした。

朝顔は何年も〳〵、いろ〳〵と培養して、長く此の目醒ましい花と親しまうと思つて居りましたが、昨年フト所謂牡丹咲の種子を澤山手に入れましたから、他のを止して是ばかりにと思ひ、二百餘鉢も蒔きましたが、種子のワルい爲めイヤハヤ大失敗いたしました。これに懲りて來年は、實際自分丈け樂むつもりで、少〳〵やつてみる考へであります。

さて失禮ですが御誌に對する私の希望を述べます。それはチト勝手がましいが夏、秋、冬菊の栽培法を初め、いろ〳〵の草花の効用や培養法を、例のやうに面白く掲載して戴きたいのであります。もと〳〵私は鐵道官舍に小家庭を組織して居るものですから、いろいろ家庭に關する有益な御說を承りたいことは山々ですが、それと同時に園藝もと……思ふので有ます。

(三十七年十二月記)

# 家庭と感化力

**▲男の子と母親**　歐米の諺に「母のある所には必ず家庭あり」と云ふことがあるが、是れは、母がなければ、家庭の家庭なる所以をなさぬと云ふ意味を現はして居るのであつて、家庭を想ふ毎に必ず母と云ふ事を聯想する。母と云ふ語は、非常に私共に大切なる語である。併しながら是れに付き、私等日本人は將來深く考へなければならぬと思ふことは、歐米の人々の母親に對する人情と、日本の人の母親に對する人情とに甚しい相違がある點です。これは古來の習慣にも依りませうが、婦人の方であると、年齢の長幼に拘らず、母子双方の間の親愛が少なくも變らないのみならず、其愛情は遠慮なく形にも表はすやうであるが、何うも男子に對しては、さう云ふ風でない。七八歳まではお母さんが男兒も女兒も同じやうに可愛がるが、十二三……モウ十四五にもなると、男兒の方からも漸々に母親に離れるやうになるが、母親の方からも、何うも膝の上に載せて愛しなどすることは、何だか調子が惡るい樣になつて來る。歐米の人情とても、日本の人情とても母の子供を愛する情に變りが有らうとは思はれない。果して同じ程の深い愛情があるものとすれば、親子の間で、別に愛情を控目にし、或は殊更に人に隱す必要はあるまいと思ふ、自分の心に溢れる愛情は、殘りなく形に現はして貰ひたいと思ふ。

**▲子供の仲間**　世間には子供好きの人があつて、自分の心に愉快を得んが爲に、子供を玩弄物にするものがある。それでは家庭の本意に適つて居らない。子供は玩弄にすべきものではない。日本の習慣として女兒などはお雛樣のやうにして、本人よりは親の方が喜こんでゐる。



是れは子供を玩弄物にするのであるが、さうでなく、眞個に子供の爲を思ふならば、毎日一時間なり三十分なり、子供の喜ぶやうな事をして遊んで遣れば、家庭の面白かつたことが、死ぬまで忘るゝこと出來ないやうになる。すべて家庭と云ふものは、子供の爲めに非常に引力のある、面白い、愉快の場所となつて居るやうでなければ、決して長じて後の道德の上に大なる感化を及ぼすことは出來ない、家庭より料理屋の方が面白いと云ふやうになつては墮落の基である。

**▲座敷と食堂**　日本の家の建方は、座敷は廣くて立派であるが、食事をするところは、狹くて、座敷に比べると總ての裝飾麁末であるのが普通一般の風であるが、若しも家庭に最深き注意をする者であつたならば、座敷と食堂の位置が全然轉倒するのが當然、座敷は偶に來客があるか、又は此處に於て事務でも執るやうなことでもあるならば、別に裝飾を施すにも及ばないが、食堂こそ、家族が集つて三度の食事をする處であるから出來るならば、相當な飾りをして眼を歡ばしむる樣にありたい。食堂に這入つて一見すれば、壁には油繪も掲げられ、卓には清き布を敷き、其上には四季の花も供へてある、此處に家族が寄り集つて、相和し相睦みて食事を共にし、疲れたる體を休め、腦を慰むると云ふ樣にあれば、子供の道德上に大變化を及ぼすだらうと思ひます。今日我々は外見を裝ふ爲めに生活をして居るのでない以上、平生遣ふ處のものを立派にして、偶に遣ふ處のものは二の次に廻すと云ふ方が、家庭の精神に適つて居る。尙ほ又如何に食堂は整ふて居つても、食物が餘り麁末であつては、矢張り私が今申し上ぐる精神には叶はないのである。

（安部磯雄氏の演說中より）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 内氣なる妻

重ね〴〵婦人の缺所を指摘するやうではあるが、予はこゝに『内氣なる妻』と云ふ問題の下に、少しばかり所感を述べ、人生に同情を持つて居る幾多の士女に、幸ひ研究の道案内をしたいと思ふ。

内氣一名陰性、これを敷衍して云へば、擧動常に陰氣にして美的の點なく、敏捷な氣轉、才氣のないは勿論。復雜な氣力の要る任務に堪へ難い、と云ふ事になる、英語に simple と云ふ形容詞があるが、曾て予は此一語に於て、日本の内氣の意味を能く説明して居ると思つた事があつた。假令へば complex, plain, mere, artless, not sagucious, not luxurious, hnmble など、まだ〳〵、幾何もあるであらうが、これを善き意味に用ゐると、誠實、質扑、實直と云ふ諸徳の面影を覗ふ事が出來るけれど、若し惡い意味で判斷すると、一として賴母しく思はれる節がない。それを充分に煎じ詰めて見ると、終には無智、愚鈍と云ふやうな、實に忌しい一點に歸して了うかも知れぬ。

内氣と云ふ心の枠の中にも、無論愛と云ふ情緒は充分にあるのであるか、どうもこれが始終内にばかり閉籠つて居て外に顯はれず、外に顯はれぬ斗りでない、肝腎の出すべき時になつて、却てこれを蔽陰してしまはうと云ふやうな事が往々あるので、愈々動作が澁つて來る。畢竟『その術』のない爲に折角の赤心も人に知られず、其上もの丶解らぬ相手には、つまらぬ誤解をされて了ふ。

細想すれば、昔より予等が同胞幾億の女性は、この内氣と云ふ性格に仕立てられて、どんなに悲痛の怨言を放ち、どんなに哀れな運命に其身を縛られたであらう。彼の淨瑠璃『三勝半七酒屋の段』の一くさりを聞いて、予等は度々お園の爲に膓を絞つて居る。『一旦殿御と極つた半七樣、嫌はれるは皆な私が不調法、鈍に生れた此身の科、今から隨分辛抱して、氣に入るやうに致しませう程に、依然元の嫁娘と仰有つて下さりませ。』――不調法者は實に氣の毒なもの『皆な私が鈍な故』



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『どうせ妾が不束なから。』と飽く迄自分を卑下して云ふが、實は卑下して云ふのではない。眞實の事を感じて語つて居るのである。これ洵に男子が其性來の無能を自ら憐む時の如く、しかく悲慘の極にはあらざるか。一方から云へば、これ不調法者の神への愁訴で、自分の運命に對するせめてもの挑戰である。

併しお園其人は昔の女。されば今日の時代にあつては如何。この種の愁訴が果して全くないであらうか。否な、予は不幸にして今尙ほ世間にはお園型の女性の多き事を白狀せねばならぬ。近頃ある雜誌上で、大町桂月氏が『離緣を描ける小說』との題下に、文藝雜誌所載の小說を評論してあつたと記臆する。その小說は『かたゝがへ』と呼び、短篇物なれど、作者が婦人である丈に、女主人公に對して如何にも厚い同情を持つて書いてある。筋は、學校の敎師でもして居るらしい文學士の妻濱江と云ふのが、夫には隨分濃やか過ぎる程の愛情を持ち乍ら、才のない斗りに機嫌を買ひ得ず。爲に夫はお定りのゲイシャ買ひをして其派出な才と美とを愛し、夜泊して歸つて來ると、妻とゲイシャの比較硏究を始めて、その敎育のある紳士の口で出て行けがしの侮辱を加へると云ふ不始末。結局、妻は居たゝまらずなり、無斷で到頭家を飛出して行方不明。作者はこれに就いて何等の詳しき說明を施して居らぬが、予も此人の生死如何を問ひたくない。また其必要も恐らくなからう。

本誌前號所載、『雪の一夜』中のお琴も、性格に於てこの濱江と略ぼ運命を一つにして居る。だが、前者の夫は妻の病氣中に花柳界へ足を踏入れたとある故、どうも肉慾の滿足を得やうとするのが、その主なる動機となつて居はせぬか。後者の塲合はさうではない。假令結果に於ては同じにしても、動機が多少精神的になつて居る。即ち、濱江の夫はゲイシャに依りて妻の缺けたる性情を味はうとしたらしい。作者が濱江と其夫誠也の性質を說明せる條を見るに、

「御氣性華やかに思ひ深き誠也樣の奧樣としては、濱江樣のお心餘りにおシミに、斯う申しては失禮なれど、融通の利かぬ事少なからざりし。」

「唯一木氣に心に色ある綾のなかりし人とて、誠也様への語らひのきこそは心ゆかぬふしのありけんはさながら。さり乍ら、あれ程眞心を籠めてお仕へなされし濱江様のよし遊ばす事にソツのありて行届かずとも、心底見えぬと云ふ筈はなかるべきに……」

御氣性華やかにと云ふ内には、快活、交際的と云ふ美所もあれば、浮氣、見榮坊と云ふ惡い點もある。只作者が思ひ深きと云つたのは、予にはどうしても合點が行かぬ。これは觀察の外れたのか、但しい用語の不適當なるに依るか、誠也其人の性質中に、消極的の氣が弱いと云ふ所はあつても、積極的の情が深いと云ふ所は少しも認められぬ。次に濱江の性格であるが、これはもう申す迄もない事、一言にして云へば赤心餘りに氣が利かぬと云ふ人である。

予はこゝに以上の實例に徴して、かう云ふ疑ひを起すものである。濱江は其心に誠實と云ふ貴い賜物のある事を神に誇り得ずして、何故に身の不才をそれ程に嘆かねばならぬか。これ慥に一個の難問に相違ないが、今予が至極公平な觀察を以て此兩者を見るに、これは多分ある性とある性との融和がとれぬ點が、この禍をなすものであらうと思ふ。總じて男には好美心と云ふものがある。それは、婦女子が凛々しき勇氣に於て初めて男子を認めるが如く、丁度男子は美に於て女子の女子たるを認めるのである。そして、この好美の心を滿足せしめる所の對象物は、必しも顔の美しいと云ふ斗りではない。姿が優麗なと云ふ斗りでもない。唯其男を醉はすに足るの才と力、夫を發表するには種々の方法もあらうが、具體的に云へば『誠實』の骨に麗しい美しい肉を付けたと云ふやうなものである。

ゲイシャと云ふ一部の婦人は、假令骨に誠實はないにしても、多くは交際上手で、教育のない割には敏捷な智覺を供へ、所謂男を醉はせると云ふ才と力を持つて居る。才の利かぬ内氣の妻に飽き足らず思ふ男が、常に申合したやうにゲイシャの前に跪くと云ふのは、少くとも此好美心の滿足と云ふ事が半ば動機となつて居はすまいか。

勿論、予は男子がゲイシャに戯れて揚々たるを可とするものでは決してない。若し、この男子の行爲を是



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

認するならば、同時に相手にも同じ特權を與へなければならぬ筈。一の配偶者が他の配偶者に對して不足を感ずるのは、何も男が女に對する場合にのみ限つては居らぬ。その特權とは何であらう。即ち、妻が其夫に於て意氣地のなき無能者たるを發見した場合などに、妻は更に他の勇氣ある男子を愛する事の出來る自由を得て居らねばならぬ。さもない時には、夫婦同權の境地に文明を誇る事は到底出來ぬ譯である。さり乍ら、予が今こゝに持出して居る議論は、男が女に對する場合である故、こゝには餘り他の事を多く云はぬ。それで、一番肝要な問題は本題の關係をどう纒めを附ければ宜いか、これである。予はこれ等の夫婦間の不和を救ふ第一の手段は、同情より外はない思ふ。然り只同情！人間はどうしても不完全なもの故、人生に深き愛念を寄せて居るものは、互に其不完全を補ひ合ひ、辛抱し合つて行かねばならぬ。美は快樂であらう。けれども誠實は尊い。自分一人快樂の後を追ふが爲めに、手許にある尊い誠實の影を忘れるとは、餘りに主我に過ぎた行爲ではなからうか。

誠也の如きも畢竟はこの同情のなかつた爲に、つい〳〵彼樣な邪路に入つたのである。予は彼の結婚當時の事情を知らぬが、併し兎に角自分がこれと認めて妻としたからには、假令自分の嗜好にあはぬからとて、女一人を悲境に陷れると云ふ法はない。それから、好美心――これは男子の本性であるから致し方なしとしても、日本の男子の好美心は其位が甚だ卑い。其間に少しも尊敬の意味がない。予は男子が神の與へし女性の美を味はうとならば、一面かの美神に對するやうな其樣な敬虔の情がなければならぬと思ふ。

さて、今一つ第二の救濟法としては、予は是非共性格の改良を主張する。よしや改良は難事であるとも、教育を修養とに依つて、內氣と云ふ不愉快な性格の全滅を期したい。由來人の性質は靜止的のものであるが、それには習慣と教育法とが大に煩ひをなして居る。大體の運命は神に任すとも、人間業で出來る丈の事は、これをいろ〳〵に工夫して理想の地に達するやう努力せねばならぬ。予は今後の家庭の主人たる人に對し、思遣りのある優しい情と云ふものを解せしめると同じ度合に、又主婦たる人に對して美育の必要を知らせたいと思ふ。日本流のこつてりとした愛情の外に何もない女には、二十世紀の細君として迚も其需要を滿たす事が出來ぬ。（洛山）



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 女學校の割烹參觀

割烹學生　石井泰次郎

短籍形に蕪菁を切る生徒、輪切にさつま芋をして皮をむく生徒、白米洗ふ生徒、青菜を鹽漬にする生徒、いなの鱗をふいて腹をひらく生徒、各自の方面々々を働いて居る生徒を、手足の樣にさしづして居る割烹科教員のいそがしさ。參觀者の一人にたつた自分は眼もなかなか及ばないので有る。けれども參觀にたつて居る以上は、兩の眼を、諸方面に走らせて見ねばならぬ。そして、即座に走らせた筆記のあらましを、一寸、自分が發明した筆記と教授法によつてうつしとつた。左の通りである。

十二月某日

◎いなまんぢう

原料

| | | |
|---|---|---|
| いな | 魚 | 十尾餘 |
| 鹽 | | 少量 |
| 味噌(三州みそ) | | 四十匁 |
| 砂糖 | | 二十匁 |

いなの鱗をふきて、ゑらを去り、腹をひらきて水にてあらひ、鹽少しふり、腹へも少しふりておき、夫へみそを、擂盆にてすりて、其上へ砂糖を合せ、水少しを加へてすり合はす。

これが出來れば、いなをざつとあらひ、其腹へ右のみそをつめて、蒸籠へ入れてむす。

◎さつまいもきんとん

原料

| | |
|---|---|
| さつまいも | |
| 同　こして | 百八十匁 |
| 砂糖 | 四十匁餘 |
| 鹽 | 三匁 |
| 水 | 三合 |

さつまいもを輪切にして皮をむき、水にとり入れ、湯鍋に入れて、湯煮すること、十五分間ばかり。さてそれをあげて、擂盆に入れ、れん木にてつきくだく。くだき終れば再び鍋に入れ、砂糖に鹽、それに水とを合せて色のかはるほどに練りて、鍋をおろす。

又別に煮てありし、芋の中角形のを其中へ入れてませ、平たき鉢に入れて、平らにならして冷しておく。

右の二種のほかに蓮根の煮染を採合して三色として、皿にもる。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蓮根の煮染の委しい仕方、きんとんの中の芋の拵方は、見きはめる事が出來なかつた。此外に汁が一種出來た。其實はかぶらのたんざく切だつた。さて其採合表として、黒板にかいてあつたのは左の如くである。

口取 ｛ いなまんぢう / さつまいも金飩 / 蓮根煮染

汁 ｛ 三州みそ仕立 / 蕪菁 / たんざく

參觀のまゝの手控であるから、其教授法の一部分をうつしとつたまでゝある。

○馬尾篩で漉すべき芋を、西洋料理風に、鉢の中でつきくだいたり、○鍋で煉るべき味噌を、ねらずに腹につめたり、○他の物にすべき中のものを、同じさつまいもでしたり……

の諸點が、學校授業として、かへつて能い所で、夫々あはせの氣てんがきいた仕方であつた。其上授業中に、飯が出來たり、漬物をつけたりするのもおもしろいことである。

そこで其擔當者は、割烹學校創立の際の卒業生、今の女子高等師範の割烹科講師の教をうけられた、赤堀教員であつた。



## 筆ついで　記者

▲婦人の政治的要求

今日の法律に於て、女子が政治上の結社に加入し、或は政談集會に出席する事を禁止してあるのは、かのいまだに有妻姦の法律が設けられてないと同樣、婦人社會の恥辱で、また文明の汚點である。

此度熱誠にして活氣ある一部の婦人により、常に婦人界の同情ある味方として仰がれて居る、島田江原兩氏の手を經て、右の法律改正の請願書を貴衆兩院に提出した。元來この法律は、趣意書にもある如く、不道理ではあるが、全く婦人閑居の遺習を根據として、當時深き意味なしに制定したのであるらしい。そして婦人自身も亦敢てそれを不思議に思はなかつた。併し、もう今日の場合は全くそれと事情を異にして居る。婦人は單に家の内の人ではない。男子と共に活動する社會の人である。

知らず、日本最近文明の智識、趣味、並びに品性の代表者たるべき議員諸氏は、この請願に對して如何なる處置を採るだらう？

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

## ▲義理

義理とは他人に對する言葉である。されば、義理ある父とは、其子の母の許へ入夫して來た人、又は母が再縁した先の父の事を指して居る。

この關係の成立つ主因は多く生活上の恐怖にある。普通の生計より出來ぬ家の細君が、頼りに思ふ夫に死なれては、忽ち其日から糊口に窮する。況して、子供でも澤山にある時には、どうしても、人の厄介になるか、乞食になるかの二つより外に仕樣がない。手に何の職もなく、學問もなく、家に一文の財産もない未亡人が、恥を忍んでも再び働き手を搜して生活の安全を得やうとするのは、現今の社會組織に照し、萬止むを得ぬ次第である。只、氣の毒に堪へぬは、この義理ある父の爲めに、罪もなき子女に累を及ぼし、相當の理想があつても、實現出來ず、却て其父の意に重大な一身の運命迄も任さねばならぬと云ふこと、特に新代の青年男女にあつては、此上の苦痛はあるまいと思ふ。

名古屋の香心生から左の如き手紙が來た。

「生の懇親なる一女は繼父の義理に依て遂に否みかね、或商人の店員に嫁せしも、固より我より進まざる縁なれば、其夫に對する厭嫌の情堪へ難し。さればとて、生母に事情を打明けるも如何ともなす能はず。然るに、昨日露の戰役により、夫は出征し、一時實家に歸り居れるも、戰爭止めば又心進まぬ家に行かねばならず、如何にせばよろしきやとて、今後の方針を生にはかりぬ。それ故、生は兎に角義兄弟になりても補助すべしと約しぬ。」

斯る實例は今日世間に少なくない、そして甚だ困難の問題である。これは娘の方の罪でもなければ、父の方とても必ず惡意あつてした事ではない。畢竟世の中の習慣のなす業である。即ち、義理などと云ふものにからまらねばならぬ社會が一番に宜しくない。だが、濡れぬ前こそ露をも厭へで、兎に角一旦縁組をしたからには、中途から厭になつたとの理由で、離婚を申込む譯には行くまい。それで、此場合、至極穩便にして、且つ意味深長の處置に出でやうとならば、女は全く舊思想の犧牲とならねばならぬ。併し、犧牲となつて復活するのである。復活するとは何を謂ふか。幸に女は氣力あり、怜悧の人であると云ふから、何かの精神的の事業に就いて社會に盡す所あり、それに依て大なる慰藉と光明に接せよと云ふのである。特に彼女が今痛切に味ひつゝある所の現社會の弊所、其弊所を打破ると云ふやうな仕事の上に其歩調を向けたならば、樂みは又其中から湧いて來やうと思ふ。

但し、若し女にして此際離婚より外に行く道がないと云ふならば、荒療治を措いて他に詮方があるまい。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

尤も、其荒療治をするに就いては、第一にまづ自己の意思の強弱を試めさねばならぬ。（唯感情の上の「厭々」では仕様がない。）そして、過去に於けるすべての自分の持物を犧牲にする丈の大覺悟がなければならぬ。

▲子の結婚

子の結婚に就いての紛擾は新舊思想混合の家庭に於て、往々にして見る處の難件である。親の身になつては、親類の娘と云ふので氣も心も解つて居るし、伜には丁度誂え向きと、斯う早合點するのも道理であれど、今の敎育のある青年には一通りの見識と嗜好とが付いて居て、結婚の理想も、餘程高い處に置いてある。そして、家と云ふ事より愛と云ふ事に重きを置いて居る。故に、いくら強い威力も此新精神には頭を下げねばならぬ筈。

予が若し清月生であつたなら、親藉の娘でもあるしするから、一旦家へ其娘を呼んで貰ひ、半年とか一年の時間を美しい交際に宛てたらばどうかと思ふ。そうして居る內には其人の性質、學識、容貌、才能、品性、等が手にとるやうに見られ、更にそれ等の特點が背景となつて、若し緣があるならば我が心の愛を呼び起すであらう。（清月生へ）



▲片々集

○「交詢欄」　京都の松木氏より「自分の愛讀せる貴誌に一つの注文は、未知の愛讀者間に於て諸種の便宜を講じ、交情を温めんが爲めに適當の欄を新設して戴きたい特に自分は斯る欄の新設に依つて、約婚の媒介を計るといふやうな大仕事が出來れば、如何に樂しき利益ある事かと信じます。」とて、自分自身も目下結婚の問題に惱んで居る一人なる事を白狀し、尙は抽籤をひくやうな現時の結婚法を恐れる代りに、家庭雜誌の新しき思想を味ひ、且つ之を實行するの覺悟ある人を本誌を介して需めたいとの手紙が來た。至極眞率なお考で、記者は無論斯う云ふ要望を容れたいと思ひます。單に理想を論ずる事のみが主となり、實際それが事實となつて顯はれなければ何にもなりませすもの。――それで、ある程度に限り、今後「交詢」と云ふやうな欄を設けませう。何方の投書も差支ないのです。

○芦信女へ　こま〴〵との手紙拜見しました。編物などのお心得があるとならば、早速それをお始めなさい。無事に苦しむと云ふのは生命を殺します。何でも人はこれぞと定めた處に安心を發見するものです。又若い女の方の事に關しては、精々心掛け聊かお骨を折りませう。兎に角笹々氏へも聞合して見る積り。

○前號の寫眞版　これに就いて、越後の島方氏は更に大形のアトタイプにして、相當の代價で頒布せよとの註文。記者は賣る事は厭にしても、可成的鮮明なるものをと頻りに心配したのですが、どうも印刷と製版のまづいのには致方のなかつた譯なのです。夫で、君の御註文には應じ難いとするも、あの畫の原因は多分丸善書店（日本橋）にありませうから、一つおとりよせになつては如何、價は安いものです。

○新年葉書　十二頁にある御趣向の葉書は堺氏に宛て丶來たもの。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 青年文壇の覇王

## 復活せる新聲の新生面を見よ

▲新聲は復活せり!!

▲泰西名畫數葉入

▲第十二編第一號 二月一日發行

文藝・美術雜誌

# 新聲

▲毎月一回一日發行

▲定價一冊金拾五錢

▲郵税一冊壹錢五厘

▲六冊前金九拾四錢

▲十二冊壹圓八拾三錢

▲新聲は新聲也文壇の中立派なり無所屬黨なり臂を天下の青年文人と執りて遠慮會釋なく中央文壇を馳驅せんとす、由來天下機運の率先者たるとは常に青年の任務なり今や活動的新日本の勃興的機運に倡ひこの乙巳の新春を以て、我が新聲は復活せり雛鶴の聲なる我が新聲か去來如何の方面に發展し如何の方面に活動すべきか本誌第一號の要目を見よ

▲盛に投書を歡迎す委細は本誌を見よ

## 復活號要目

▲如何にして我が國民樂を刷新すべき……坪内逍遙

▲悲みの極……緒方流水

▲都市生活の趣味……草村北星

▲書籍の生命……千葉江東

▲春の村……齋藤弔花

▲山上の孤屋……窪田通治

▲人生行路の詩……見玉星人

▲相思怨を讀む……宮田修

▲緩調急調……文界風聞記

▲新春記……平尾不孤

▲高田と河合……魔王

▲正月物語……上田董舟

▲君去にたまふと勿れ……無名氏

▲復活の辭……新聲記者

▲荻聲水語……松原至文

▲野川の夕べ……石丸紫水

▲薄暮の颸隤……藤井佛川

▲まこと……淺川すみ子

▲造り花……夷希徽

▲しら藤……野琴子

▲若葉かご……茅峰生

▲おもかげ……津倉春洋

▲戰の曲……北辰

▲うもれ草……池元奇璨

▲我がなやみ……龜岡生

▲詩人と信仰……船勢銀杏

發賣元 東京市京橋區尾張町一丁目一番地 電話新橋二五八六番 合資會社 隆文館

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

改良ロンテニス二重枠ラケット一組

| | |
|---|---|
| 一號品 | 一二、五〇〇 |
| 二號品 | 一一、〇〇〇 |
| 三號品 | 八、八〇〇 |
| 四號品 | 七、四〇〇 |
| 五號品 | 六、七〇〇 |
| 六號品 | 五、七〇〇 |
| 七號小學用 | 四、七〇〇 |
| 八號婦人用 | 六、〇〇〇 |
| 九號婦人用 | 七、〇〇〇 |

東京神田裏神保町五
S.A. 安藤商店

ピンポン室内テニス

| | | |
|---|---|---|
| 一號 | 一箱 | 一、二二〇 |
| 二號 | 同 | 一、五〇〇 |
| 三號 | 同 | 一、六八〇 |
| 四號 | 同 | 一、八三〇 |
| 號外 | 同 | 〇、八八〇 |

改良テニスネット

| | | |
|---|---|---|
| 一號 | 一張四間半 | 一、七五〇 |
| 二號 | 一張五間半 | 二、二五〇 |
| 三號 | 一張六間 | 二、四五〇 |
| 四號 | 一張七間 | 二、九五〇 |

ゴム入フートボール

| | | |
|---|---|---|
| 二號 | 一個 | 四、〇〇〇 |
| 三號 | 同 | 四、五〇〇 |
| 四號 | 同 | 五、〇〇〇 |
| 五號 | 同 | 五、五〇〇 |
| 六號 | 同 | 六、〇〇〇 |
| 七號 | 同 | 六、五〇〇 |
| 八號 | 同 | 七、〇〇〇 |

體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町五
# 安藤商店
電話本局四百八十四



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

# 外科皮膚病

梅毒痔痳外科的婦人科尿道器械的療法

診察　午前九時より十二時まで

東京　新橋際出雲橋　**加藤病院**

院長　獨國醫學士　加藤時次郎

分院　横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸　毎月曜午前中

---

電話本局八八八番一三八五番　東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

**東洋内科醫院**

院長　醫學士　高田畊安

診察　毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

**南湖院**

副院長　醫學得業士　林止

診察　院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

東京麹町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

**高田病院施診所**

主任　醫學士　松田三彌

診察　毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

---

# 帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り（電話新橋八一六番 二八〇八番）

飯倉四ッ辻　飯倉支店　電話新橋一五七四番

赤坂表一丁目　赤坂支店　電話新橋二〇六八番

四谷大通り　四谷支店　電話番町五一〇番

牛込神樂坂　神樂坂支店　電話番町六三〇番

本郷一丁目角　本郷支店　電話下谷七二番

神田須田町　須田町支店　電話本局二〇七三番

兩國米澤町　米澤町支店　電話浪花二五九〇番

淺草吾妻橋通　吾妻橋支店　電話下谷七三番

南品川一丁目　品川支店　電話新橋一一三九番

横濱吉田町　横濱支店　電話横濱一三〇四番

日本橋坂本町　代理店　田中銀行　電話浪花二四〇番




Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由分社廣告

# 家庭雑誌 合本第二卷

壹冊　價七十錢　郵稅十錢

例に依て第貳卷十二冊の合本を調製しました。總クロースで頗る美麗、且つ堅固に製本してありますから、永く座右に備へて愛玩するに宜しく、又家庭間の贈り物に致すにも、極めて妙であらうかと思ひます。

注意（右合本の御注文には當分の內郵稅を當方にて負擔致します。）

由分社廣告

# 週刊 直言 新聞

第二卷第一號二月五日(日曜)發行

▲本紙は第二卷第一號より紙面を擴大して平民新聞型八頁と爲し、發行數を增加して每週日曜發行となし、日本社會主義の中央機關を以て任せんと欲す。

▲本紙の特約せる執筆者は左の如し。

原霞外　山田滴海
堺枯川　石川旭山
木下尙江　西川光次郎
白柳秀湖　小野有香
幸德秋水　加藤時次郎
小川芋錢　松岡文子
小田頼造　山口義三

▲定價一部郵稅共三錢五厘、廿部前金郵稅共六十五錢、五十部同一圓六十錢

▲御註文は便利の爲成るべく一手大賣捌所平民社へ御申込を乞ふ。

社會主義中央機關

發行所　東京荏原郡入新井村新井宿　直行社

一手大賣捌所　東京市麴町區有樂町三丁目　平民社

# 腦病 靜靖丸 頭痛

## 腦力を明快にし腦病神經病を全治す

**腦病**にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

**神經**症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

**逆上**症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

**頭痛**症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及ひ頭痛持の人

**不眠**神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

**藥價** 二日分弱金拾錢　廿二日分（常備用）金壹圓　十日分金五拾錢
六日分金三拾錢　四日分金貳拾錢

**本舗**　東京市日本橋區藥研堀町　藥劑師　高木與八郎

## 逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

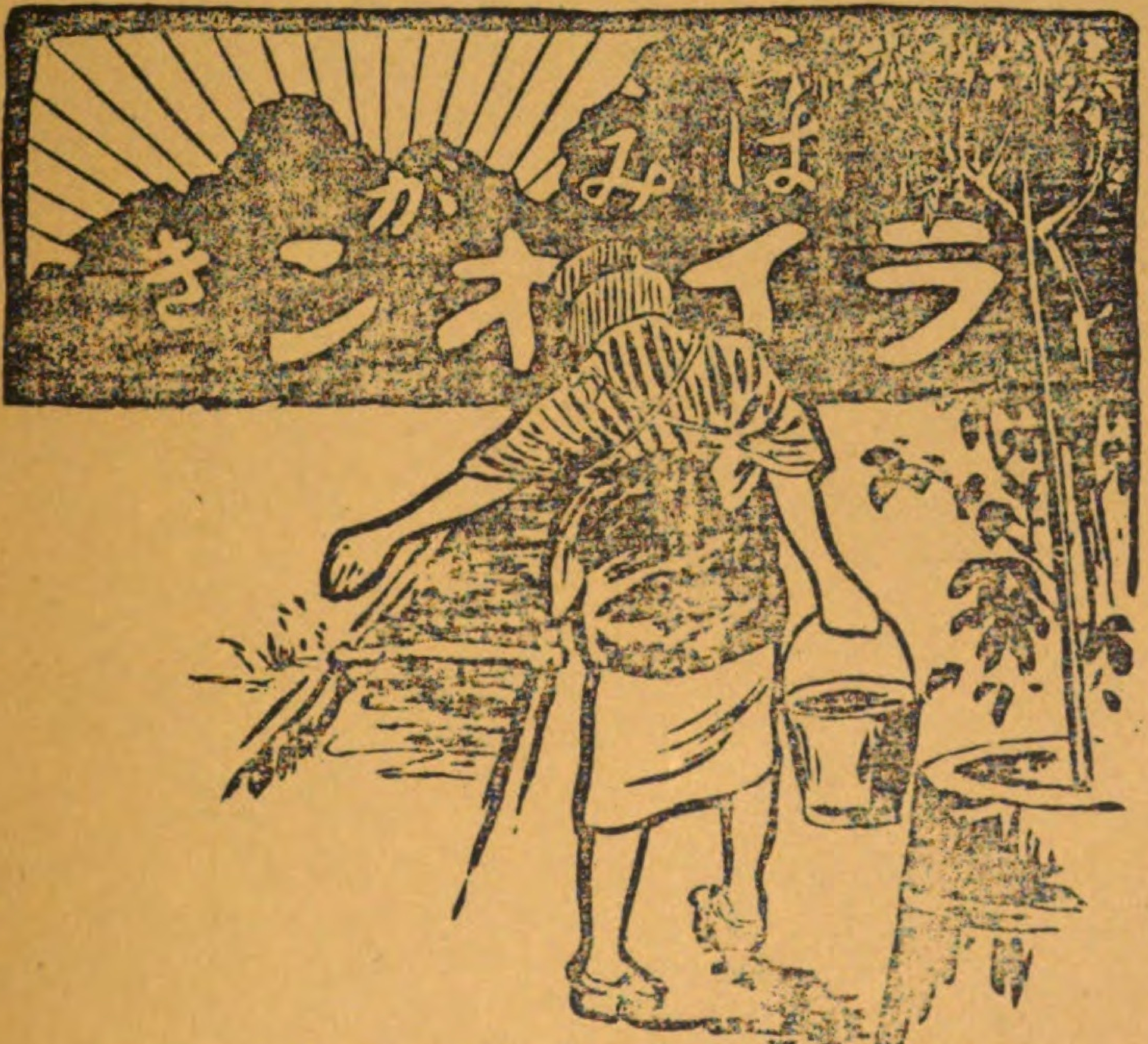
家庭雜誌第一號　明治三十六年四月五日第三種郵便物認可　明治三十八年二月二日發行


# 慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覽會

## 名譽銀牌受領




發賣元　東京　小林富次郎

粉製　**赤鑵入**　發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色鑵入にして頗る携帶に便なり能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢

發兌元　大阪　小林支店


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA